

# 教訓生かし減災へ

津波調査、研究者ら報告

石垣



【石垣】八重山明和大減災に活かすために津波研究会（正木譲会）石垣市健康福祉センターは15日、講演会「災で開催した。琉球大学工学の痕跡や記録を防災や学部の中座栄三教授ら3

調査結果を報告する仲座栄三教授＝15日、石垣市健康福祉センター



研究者の報告に耳を傾ける来場者＝15日、石垣市健康福祉センター

人の研究者がそれぞれの研究結果を報告した。仲座教授は宮古島や石

垣島の津波石、津波堆積物などの調査から「明和の痕跡は見つかっていない」と説明。「明和の大津波が歴史上最大の津波だった」と推定した。

また、与那国町比川にある県内最大の海拔1111の護岸を越えて波が押し寄せる現象を調査した結果「通常より長い周期で襲う波がある」と分析。津波でなくても大きな波が押し寄せる可能性を示唆した。

琉球大学島嶼防災研究センターの山田浩世氏、県教育庁文化財課の山本正昭氏らも講演した。

東日本大震災時の防潮林の大半が津波で流されたものの、一部は残って機能していたことも説明。「津波に人工的に打ち勝つことは難しい。しかし、津波の特性を理解